

全国協議会 ニュース

2022年10月1日発行 第362号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

日本骨髄バンク地区普及広報委員・説明員研修会開催

2019年度まで対面方式で行われていた地区普及広報委員・説明員研修会ですが、コロナ禍のため2020年度からWeb配信となりました。また、これまでは1~2月頃に実施されていましたが、本年度は8月に行われました。

冒頭、小寺良尚理事長より、昨年日本骨髄バンクが創立30周年を迎えたことへのお礼と、地区普及広報委員・説明員への感謝及び骨髄バンクの顔として活動してほしいとの挨拶がありました。

引き続き小川みどり事務局長より事業実施の基本方針が示されました。

1. 若年層を軸とした提供応諾率の高いドナー獲得
2. 応諾率向上に向けた社会環境整備とドナリテンション推進
3. リモート面談を活用したコーディネートの効率化
4. コーディネート期間短縮に向けた移植最適時期での採取を目指す取組
5. 国内・海外関連組織との連携強化

2021年度の適合ドナーは23,605人でそのうち58%が初期段階でコーディネートが終了している。ほとんどがドナー側の理由で「都合つかず・連絡とれず」が多くを占めている。(図1) 郵送で10日ほどかかっていた適合ドナーからの問診票の送受信をWebで可能とし80%が利用し2~3日での回答を得られている。また、早期連絡コースとして適合ドナーに電話連絡で移植希望時期を伝え調整するトライアルを拠点病院で実施したが、適合しても次々とドナー理由で終了する、確認検査枠・採取枠の確保が困難、などの

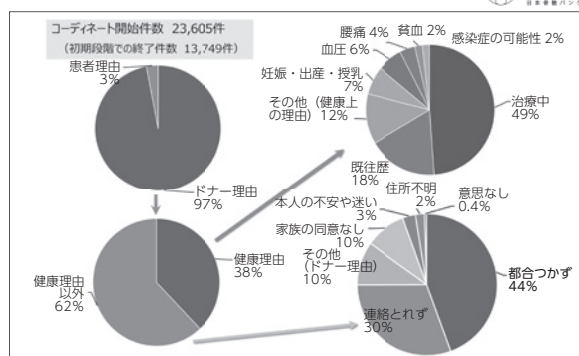
課題が浮き彫りになった。対策として登録中のドナーが理解を深めるためSNSでの情報発信、ドナー休暇制度・学校の公休制度など協力体制整備、住所更新の呼びかけなどを進める。さらに最終同意面談も積極的にリモートを活用し、患者さんの希望に応じた採取調整実現などに、より一層取り組む。

世界的にみても日本の登録者の年齢は高く、一方、若いドナーからの提供は移植成績が良いため、若年層ドナーを確保していく取組をお願いしたいと話されました。

続いて鈴木慶太事務局長より骨髄バンクの現状と課題の説明がありました。登録ドナーは40代以上が58%で近年は毎年25,000人以上が登録卒業・取消者となっており、常に新規登録者数を増やしていくことが必要。移植率は55.4%とまだまだ低い。

まず、献血併行型登録会の積極的な開催をお願いしたい。役所・企業では40代の登録が多く、10~30代への登録の声かけ、また40代未満の登録者が見込めない会場は一時休止し、若年

図1 終了理由別 終了件数 (2021年度)



層ドナー確保のため大学・専門学校・高校での開催をお願いしたい。

また、各都道府県の担当者・血液センター・骨髄バンク・ボランティアが課題・情報交換・意思疎通を行う場として、骨髄バンク推進連絡協議会の開催を推進し、より良い骨髄バンクを作っていく。現在35道府県で開催されているが、未実施の都県も協議会を設置していただきたい。また、ドナー登録から提供までの動画をYouTubeで配信(約6分)しているので登録会で活用してほしい。

最後に「移植医からのメッセージ・なぜ、若年ドナーを増やす必要があるのか」との演題で、大阪公立大学医学部附属病院 血液内科・造血細胞移植科 日野雅之医師(日本骨髄バンク理事)より発表がありました。内容は次号でご案内いたします。

Webでの研修会は話が一方通行となり、オンタイムでの質問ができず、また他の説明員の貴重な話が聞けなかったりと不満が多い研修会となりました。早くコロナ禍が収束し、ボランティア仲間と一緒に研修を受けたいと切に願います。

(説明員・副理事長 山村詔一郎)

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDP(9月15日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2022年8月末現在)

	7月	8月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,243	2,822	540,451	901,917
患者登録者数	192	204	1,686	64,931
移植例数	87	84	—	26,957
	(31)	(25)		(1,678)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■8月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/798人、献血併行型集団登録会/1,952人、集団登録会/7人、その他/65人

■8月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,719人/20代 85,820人/30代 135,940人
40代 219,094人/50代 95,878人

■8月の20歳未満の登録者166人

■8月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数:1,628件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

厚労省 令和5年度の概算要求概要

厚生労働省は、8月末に来年度（令和5年度）の概算要求を公表しました。「若年層の骨髄等ドナー登録者や臍帯血の確保、コーディネート期間短縮に向けた取組や造血幹細胞移植後の患者のフォローアップ体制構築、基盤（骨髄バンク・臍帯血バンク）が安定的に運営できるよう支援を行う」として、25億円を要求しています。臍帯血バンク関連で4千万円増額要求、骨髄バンク関連での増額要求はありませんでした。（括弧内は令和4年度当初予算額）

造血幹細胞移植対策の推進

25億円（24億円）

①骨髄バンク運営費

4.9億円（4.9億円）

骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業者（骨髄バンク）の安定的な運営を引き続き支援する。

②骨髄データバンク登録費

6.5億円（6.4億円）

骨髄移植及び末梢血幹細胞移植をする際に必要な骨髄等ドナーのHLA（白血球の型）の検査及びデータ管理・管理体制の確保を図る。（日本赤十字社）

③臍帯血バンク運営費 [拡充]

6.6億円（6.2億円）

臍帯血移植の実施数が増加しており、保存臍帯血が減少傾向になっているため、臍帯血採取協力産科施設への支援強化、普及啓発により臍帯血確保対策を図り [新規事業]、臍帯血バンクの安定的な運営を引き続き支援する。

④造血幹細胞移植患者・ドナー情報登録支援事業（学会データセンター運営費）

78百万円（77百万円）

患者の治療内容やドナーの健康情報等を収集・分析し、医療機関・研究者に提供することで、治療成績や安全性の向上につなげていくためのデータ処理・解析体制の確保を図る。

⑤造血幹細胞提供支援機関事業

1.9億円（1.9億円）

骨髄バンク事業者と臍帯血バンク事業者に対する支援を行う支援機関の安定的な運営を引き続き支援する。（日本赤十字社）

⑥造血幹細胞移植医療体制整備事業

（拠点病院運営費）

4.0億円（4.0億円）

造血幹細胞移植患者の生存率向上、移植医療の状況が変化する中で、移植後も身近な地域で生活の質を保ち、安心して暮らしていけるよう、引き続き各地域の造血幹細胞移植推進拠点病院の体制整備を図る。

し、ライオンズクラブ、日本青年会議所、ローターアクトクラブなど支援団体とも関係を深め、コロナ禍の2020年度も併行型登録会を328回開催し、3,004人の方に、2021年度は473回、4,001人に登録をいただきました。有難いことに多くの併行型登録会の依頼をいただくのですが実働できる説明員が少なく、府県を越えた奈良、滋賀、兵庫、京都の説明員の方にご協力をいただいております。今年度、理事長交代、事務局体制も変わったことを機に全国協議会の仲間にも入れていただき、近畿全体、さらには全国の皆さんとご一緒に力を合わせていければと思っています。

（関西協会 理事・事務局 浅野祐子）

ドナー休暇普及に向けて北海道庁が意見交換会開催

ドナー休暇制度の普及に重点的に取り組んでいる北海道医務業務課が、8月23日（火）に関係団体との意見交換会（オンライン）を開催しました。

当日は、道医務業務課及び北海道骨髄バンク推進協会の他、日本骨髄バンク（広報渉外部）、道赤十字血液センター、道商工会議所連合会、日本労働組合総連合会道連合会、がんの子どもを守る会道支部が出席しました。

日本骨髄バンクから同制度の概要、道から過去及び今後の取組についての説明と質疑応答があり、各団体とも道の提案に理解を示すとともに、それぞれから前向きな意見が述べられました。

道は、昨年、ドナー休暇制度の普及についてホームページでのPRやクラウドファンディング、オリジナル動画DVD制作、関係団体への協力要請等を実施し、今年3月の道議会では、鈴木直道知事がドナー休暇制度について「企業の取組を広める新たな仕組みの検討を行い、早期の実施に向けて取り組む」と答弁しています。

道は、近日中に2回目の意見交換会を開催した上で、推進月間でもある10月中には新たな取組をスタートさせたいとしています。

ドナー登録拡大への大きなカギとなる同制度の普及が期待されます。

新規加盟団体のご紹介

NPO法人 関西骨髄バンク推進協会

この度全国骨髄バンク推進連絡協議会に再加盟いたしました。

当会は約30年前の1991年12月の「骨髄バンク」の設立後、1992年8月の「骨髄バンク近畿シンポジウム」開催を機に近畿地区で各地のボランティア団体のネットワーク化を目指し、準備委員会を経て前身の「関西骨髄バンク推進協会」を設立しました。当時は全国協議会に加盟しており1999年8月には、「骨髄移植2000例突破 全国キャラバン」にも参加しました。

2002年10月、大阪府下で初めて献

血併行型ドナー登録会を実施し、2003年9月に「NPO法人関西骨髄バンク推進協会」が設立されました。当時は近畿2府4県に運営委員がおり、各地のボランティア団体が行う啓発活動に共催、後援、支援とさまざまな形で参加していました。そのころのいきさつはわかりませんが、私が説明員として関西協会に関わり始めた10年前はすでに大阪だけの活動になっており、全国協議会にも加盟していませんでした。

当会は血液センターとも情報共有

支援者をお訪ねして
(三井化学株式会社様)



9月12日(月)、港区汐留にある三井化学株式会社を梅田正造副理事長(写真)と事務局が訪問し、長年にわたるご支援のお礼をお伝えするとともに、2021年度の活動報告をしました。同社の「ちびっとワンコイン」は、従業員が社会貢献活動に自主的に参加する独特のシステムです。「ちびっとワ

ンコイン」は、従業員の皆さまが自主的に、希望した金額を給与や賞与から控除して基金として積み立て社会的な活動をしている団体へ寄付する活動であり、さらに同社が基金支出額と同額のマッチング寄付を実施しています。現在、約750人の従業員が参加され、16の支援先に寄付を行っています。全国協議会は開始された2008年以降、2009年を除き13回にわたり合計520万円のご寄付を頂いています。今まで頂いたご寄付は、白血病フリーダイヤルの運営やハンドブック「白血病と言われたら」の改訂版発行など様々な活動に充当させていただきました。昨年は資金枯渇の危機にあった「佐藤きち子基金」に充当し、基金を存続の危機

から救っていただきました。おかげで多くの患者さんが移植治療に前向きに取り組むことができました。従業員の皆さまお1人お1人の善意が、患者さんの命を救ってくれました。心から感謝いたします。

コロナ禍が続いたため、なかなかご挨拶がかなわなかった「ちびっとワンコイン」担当者であるコーポレートコミュニケーション部広報グループの越中亜弥さんとは初めて直接面談することができました。とても気さくな方で、現在の活動の概要等をご説明いただきました。今後も支援者の皆様のお気持ちをきちんと患者さんにお伝えできるように取り組んでいきたいと思

「ありがとう」の大切さ

急性骨髄性白血病の闘病記を綴った自叙伝を出版した大山しのぶさんからご寄稿いただきました。



新緑が綺麗な6月、体調に異変が起こった。仕事に行っても1日中だるく、会社の3階まで駆け上がっても平気だったのが、息切れがする。体力が落ちたと思いサイクリングを3日した。その夜中、不整脈が出た。何かがおかしい。病院で血液検査をした。結果を持参し別の病院で検査入院となる。

病名は、急性骨髄性白血病だった。信じられず、余りのショックに1晩中泣き崩れた。翌日大学病院に入院し、個室に入った。検査後すぐその日から抗がん剤治療に入った。髪の毛は抜ける、食欲が落ちる等の副作用が出た。2週間ばかりで無菌室に入った。殺風

景な部屋だった。

私の場合、骨髄移植をしなければ生存率20%と告げられた。姉が適合したので姉からの移植となった。姉はリスクがあるにも関わらず、ドナーになると言ってくれた。本当にありがたかった。でも1つ余りにもショックな事があった。移植をすると子どもは望めないと言われ、大きな声でワンワン泣きじゃくった。彼氏に申し訳なくて仕方なかった。でもやるしかない。どんな辛い事があっても移植をしなくては。今ここで死ぬ訳にはいかない。未来にどんな楽しい事が待ち受けているか分からない。その為にも挑むしかなかった。

そこには家族の支えが絶大だった。移植をする為の抗がん剤治療は思っていた以上に壮絶だった。副作用が辛くて痛くてどうしようもなかった。でもこれを耐え抜いたら元気になる。絶対に良くなると思ひながら、ただただ良くなるのを待った。それからどんどん

良くなり大部屋に移された時、気分は爽快だった。

半年してやっと退院になり家に帰った。戸を開け部屋に入り「ただいま」と言うと同時に涙が溢れた。生きて帰ってこられた。移植は大変だったけど、やって良かった。命を繋いでもらった。家に帰ってからは体力をもどすため、両親と姉と一緒に散歩に行った。父は「また1からやり直せばいい」と励ましてくれた。

今は色々チャレンジしている。プリザーブドフラワーの資格を取り、紙バンドでカゴやバックを作り、自宅で手作りショップを開いた。その後は紙バンドの作品をイベントに出品している。多くの人の助けや励ましがあつたからこその充実した毎日が送れている。病気をして得た物は「ありがとう」の大切さに気付かせてもらった事。

詳しい事は自叙伝「夢の街(2000円)」に書いています。問い合わせは

090-7124-8204 まで (大山しのぶ)

医療講演会を公開しました

以下の動画を全国協議会 YouTube チャンネルにアップロードしました。全国協議会のホームページからもご覧いただけます。(約2時間程度の動画です)

- 《関西骨髄バンク推進協会医療講演会 (2022年6月18日(土))》
- 「小児領域における造血幹細胞移植の現状」
澤田明久先生 (大阪母子医療センター)
- 「成人領域における造血幹細胞移植の現状」
石川 淳先生 (大阪国際がんセンター)
- 「骨髄バンクの現状と今後の役割」
日野雅之先生 (大阪公立大学附属病院)

「東京雪祭 SNOWBANK PAY IT FORWARD 2022」開催

SNOWBANKでは、『楽しいから始まる社会貢献』をテーマとして、普段献血ルームに足を運ばない若者に献血・骨髄バンクを知って行動してもらおうキッカケの場づくりをしています。スポーツや音楽、ARTの力を通して、若者が楽しみながら献血・骨髄バンクについて知り、行動することにより、一人でも多くの患者さんが治療のスタートラインに立てる社会づくりを目指しています。*新型コロナウイルス対策(マスク、消毒、ソーシャルディスタンスの確保)を整えた上で「東京雪祭 SNOWBANK PAY IT FORWARD 2022」を開催いたします。ご来場いただく皆様にも、対策のご理解とご協力をお願いいたします。

- 開催日: 2022年11月12日(土)-13日(日)
- 会場: 代々木公園 イベントB地区
- 開場: 9:00 ■閉場: 17:00
- 料金: 無料 ■主催: 一般社団法人 SNOWBANK

雪主(運営費用のご支援者様)募集



各地のたより
各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

大阪
「いのちのつながり展」
を開催



大阪府では2022年4月から豊中市と箕面市(みのおし)で「骨髄バンクドナー助成金制度」が導入されました。既に導入されている大阪市・池田市・泉佐野市・大阪狭山市・堺市・富田林市・東大阪市・枚方市(ひらかたし)と合わせて10自治体となりました。

(2022年9月現在)

その豊中市で、骨髄バンクの普及啓発を目的とした初の試みとして、市役所第二別館ロビーにて骨髄バンクのパネル展(8月2日(火)~8月9日(火))を実施しました。展示は「MAMOのメッセージ」「いのちの輝き展」セット、「春ちゃんは元気です」「著名人パネル」などと、夏祭りにあわせた献血活動告知ポスターを掲示しました。豊中市では今年から骨髄ドナーやがん患者を応援するクラウドファンディングも開始するなど、多くの市民の方に協力を呼びかけています。

続いて、池田市では10回目となる市役所ロビー展(8月23日(火)~9月5日(月))を実施しました。「いのちの輝き展」セット、「春ちゃんは元気です」に加え、大阪池田モラロジー事務所の「伝えよう!いのちのつながり」の小・中学生の書いた作文、短歌の展示をしました。

市民の方から展示を観た感想を多くいただき、価値ある取組になったのではと感じました。より多くの市民の皆さんに「いのちの大切さ」を改めて感じていただき、献血・骨髄バンクの必要性に気付いていただき、一人でも多くの協力を得られれば幸いです。

全ての患者さんに最適な時期に、最適なドナーさんが現れ、最適な治療を安心して受けられる日がくることを願っています。「できる人が、できる時に、できる事をする。」そういった協力を促すきっかけになるよう、今後も続けていきます。

(骨髄バンク地区普及広報委員・説明員 届け! 関西からいのちのバトン! 代表 NPO 法人つながるいのち 理事 赤木晴香)

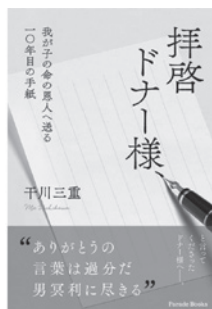
書籍紹介

『拝啓 ドナー様、』

〈著・千川三重 (ほしかわ みえ)〉

我が子の命の恩人に送る10年目の手紙。「ありがとうの言葉は過分だ 男冥利に尽きる」と言ってくださったドナー様へ。

「闘病を乗り越えた息子にはずっと健康で長く人生を謳歌してほしい。ドナー様を含めて関わった全ての方に感謝の気持ちを忘れないでいきたい。リスクを承知で骨髄提供をしてくださったドナー様に、今一度家族の感謝の気持ちをお伝えしたい」との思いが込められた、骨髄移植を必要とする病と闘っている方、骨髄提供を考えている方、現代の社会に生きるすべての方に読んでほしい闘病の記録です。2022年10月7日(金)から全国書店にて発売します。



チャリティコンサート開催決定

コロナ禍で中止を余儀なくされていたチャリティコンサートが3年ぶりに関東の3カ所、埼玉(ミニシンポあり)、千葉(落語会、ミニシンポあり)、東京で開催されます! 感染予防対策をしっかりと行って開催します。ご来場の皆さまもご協力をお願いいたします。

3会場のチラシが
ご覧いただけます→
料金・申込方法等
はこちらをご確認
ください!



演奏者 (3会場共通)

- 三戸素子 (ヴァイオリン)
- 高田匡隆 (ピアノ)
- 小澤洋介 (チェロ)

演奏曲目 (3会場共通)

- * ショパン: ノクターン 48-1
- * サン=サーンス: 白鳥
- * サラサーテ: ツイゴイネルワイゼン
- * ベートーヴェン: ピアノ三重奏 第7番 変ロ長調「大公」作品97

11月19日(土) 開場 13:30 開演 14:00	11月26日(土) 開場 13:30 開演 14:00	11月23日(水祝) 開場 14:30 開演 15:00
日本バプテスト浦和キリスト教会 JR北浦和駅西口徒歩10分	成田市文化芸術センター JR成田駅前	求道会館(東京都文京区) 南北線東大前駅徒歩5分
埼玉骨髄バンク推進連絡会	千葉骨髄バンク推進連絡会	骨髄バンクを支援する東京の会

心からのご寄付に感謝申し上げます ●8月21日~9月20日(敬称略)

●一般	塩谷 泰人 現金 1,000円	磯屋食堂 現金 8,941円
和久津 晶 現金 10,000円	●募金箱	足立眼科医院 現金 8,519円
松浦 大助 現金 15,000円	株式会社クスリのアオキ	麻雀メカバビイ渋谷店 現金 8,985円
藤波 敬子 現金 10,000円	現金 780,142円	●つながる募金
匿名 現金 10,000円	株式会社マルト商事 現金 67,800円	現金 15,602円
匿名 現金 3,000円	株式会社ナルックス	●キモチと。
●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金	現金 308,861円	現金 23円
公益社団法人 大原記念倉敷中央医療機構 現金 9,441円	株式会社フクヤ 現金 1,867円	

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会